

# 第〇学年 外国語活動 / 外国語科学習指導案

小学校 外国語活動・外国語科

中学校 外国語科

令和 年 月 日 校時  
〇〇〇学校 年 組 名  
授業者 〇〇〇〇〇  
(T2 〇〇〇)

**【参考資料】**

- 学習指導要領解説（H29）
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

## 1 単元名

年間指導計画 p〇〇（月）指導内容

教材名：「 \_\_\_\_\_ 」（光村図書 Here We Go! 年）

CAN-DO リスト：例）読んだことについて、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うことができる。

教科の特性で挿入

単元名には、教材名以外に CAN-DO リスト形式による学習到達度目標を明記する。

## 2 単元の目標

- (1) \_\_\_\_\_ (知識及び技能)
- (2) \_\_\_\_\_ (思考力、判断力、表現力等)
- (3) \_\_\_\_\_ (学びに向かう力、人間性等)

## 3 単元について

### (1) 教材観

- 学習指導要領のどの内容を受けて設定した単元（題材）なのかを明確にする。
- 本単元で身につけさせたい資質・能力について考察する。
- 教材の分析や素材の魅力、また、小学校で経験した言語材料や言語活動がある場合には、明記する。

### (2) 児童（生徒）観

- 本単元の学習に関わる児童生徒の実態を考察する。
- 本単元では、どのような児童生徒の姿をめざすのか？
- 既習単元の学習状況、情意面におけるアンケートや諸調査の実態等からも分析をする。

### (3) 指導観

- 「教材観」と「児童生徒観」から、教材の特徴を生かし、どのような学びを展開させていくのか。
- 校内研究・個人研究、児童生徒の課題にどのようにせまるのか。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 第3編 を参照

## 4 単元の評価規準

領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
例 書くこと	〈知識〉	文末：～している。	文末：～しようとしている。
	〈技能〉		粘り強さの側面や自らの学習を調整しようとする姿の視点で設定する。
5領域のうち、主に本単元で見取る領域を記述する。複数も可。			

教科の特性で挿入

5 単元の指導計画と評価計画（全〇時間） \* 〇記録に残す評価

時	ねらい・学習活動 目標（■）・主な言語活動等（丸数字）	評価規準			評価方法及び 支援が必要な児童生徒への手立て
		知技	思考	態度	
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     ○外国語においては、「記録に残す評価」は、児童生徒が新出事項に十分慣れ親しんだ後、単元の後半に行う。                      ○ねらいに則して生徒の活動状況を確実に見届け、「指導に生かす評価」は毎時間行う。                      ○活動させているだけにならないよう十分留意する。                 </div>				
2					
3 本時					
8	単元テスト パフォーマンステスト	例) ○ 書く こと			

6 単元末または学期末におけるパフォーマンステストとルーブリック \* 中学校のみ記載、小学校は削除

(1) パフォーマンステスト

- 児童生徒にとって、できるだけ必然性のある課題を提示する。
- 「目的・場面・状況」を具体的に設定する。

- 「話すこと」または「書くこと」のパフォーマンステスト、評価にかかるルーブリック、生徒の発話例筆記例（めざす子どもの姿）を示す。
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料を参考に作成して下さい。

(2) ルーブリック

教科の特性で挿入

7 本時の学習【〇/〇時間】

(1) ねらい

- 子どもがどのようなことを言えたり書けたりすれば、目標を達成したことになるのかを具体的に。
- 児童生徒に身につけてほしい事柄を「目的・場面・状況」を踏まえた上で、具体的に記述。

(2) 本時の評価規準

評価の観点		○評価の観点には、観点名を1つ記入（多くても2つ）。 ○評価規準には、「おおむね満足（B）」の達成状況を記入。 ○評価方法には、授業内（途中）及び授業後（本時を振り返るため）の評価方法を記入。
評価規準		
評価方法	授業内： 授業後：	

(3) 「めざす子どもの姿」の実現に向けた授業改善（発問など授業の工夫）

場面	工夫点	めざす子どもの姿

- 本時の授業のどの場面でどのような工夫を行い、どんな子どもの姿をめざしているのか。
- 言語活動における指導の工夫を明記する。

(4) 展開 (第〇時)

過程	学習活動・内容・発問等	予想される子どもの反応	指導上の留意点、評価等
導入 (つかむ・見通す) 〇分	<p>○「何ができるようになるのか」の視点を持って「めあて」を立てる。                      ○活動のみの目標 (～について発表することができる) ではなく、本時のねらいを達成するための学習課題を設定する。                      例) 5W1HのQ型: どんな、なぜ、どのように～だろう?                      例) レッツ型: ～に着目して (をもとに) 魅力が伝わる紹介文にしよう!</p> <p>Today's Goal</p>		<p>○どのようなねらいでどのような指導を行うのか、指導のポイントを記述。                      ○本時の目標を達成するための指導の具体を記述。</p>
展開 (考える・深める) 〇分	<p>○自分の力で課題と向き合えるよう、解決の見通しをもつ時間 (見通し)、根拠をもとに自分の考えをもたせる時間 (自立的な活動)、集団で自他の考えを吟味し洗練する時間 (協働的な活動) 等を設定し、記述する。                      ○「言語活動」を通して資質・能力の育成ができるよう、自分の意見や感想等を話し合ったり書いたりする場面を設定する。                      ○外国語科における「問い」を生かした授業 (問いサポより) 「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、日常的な話題や社会的な話題について、自分の考え、気持ちなどを、トピック作文、電子メールのやり取り、ディスカッション、ミニディベート等で伝え合ったり、表現したりすることを通して、必要な単語やフレーズの確認をする。つまり「活用」と「指導」がスパイラルに循環する授業を展開することが大切。</p>		<p>【評価場面において】                      ○指導に生かす評価の場合でも、評価の観点と評価方法、評価基準を記述。                      ○努力を要する生徒への手立てを記述。</p> <p>例) 【思判表】                      友達の意見を踏まえ、自分の考えを書くことができる。                      (行動観察、ワークシート)</p>
終末 (まとめる・振り返る) 〇分	<p>○まともめは授業によっては振り返りの中で行う場合もある。</p>		

(5) 板書計画 (予定)

○本時の授業の最後に書かれる板書を想定して作成する。  
 ○実際に黒板に書いたもの (表示したもの) を撮影して、貼り付けてもよい。

○指導案以外に、授業で使用するワークシート等の資料を添付。